

# 東京大学総合図書館における ライブラリー・スキーマの作成

東京大学附属図書館ライブラリー・スキーマ検討チーム

田口忠祐

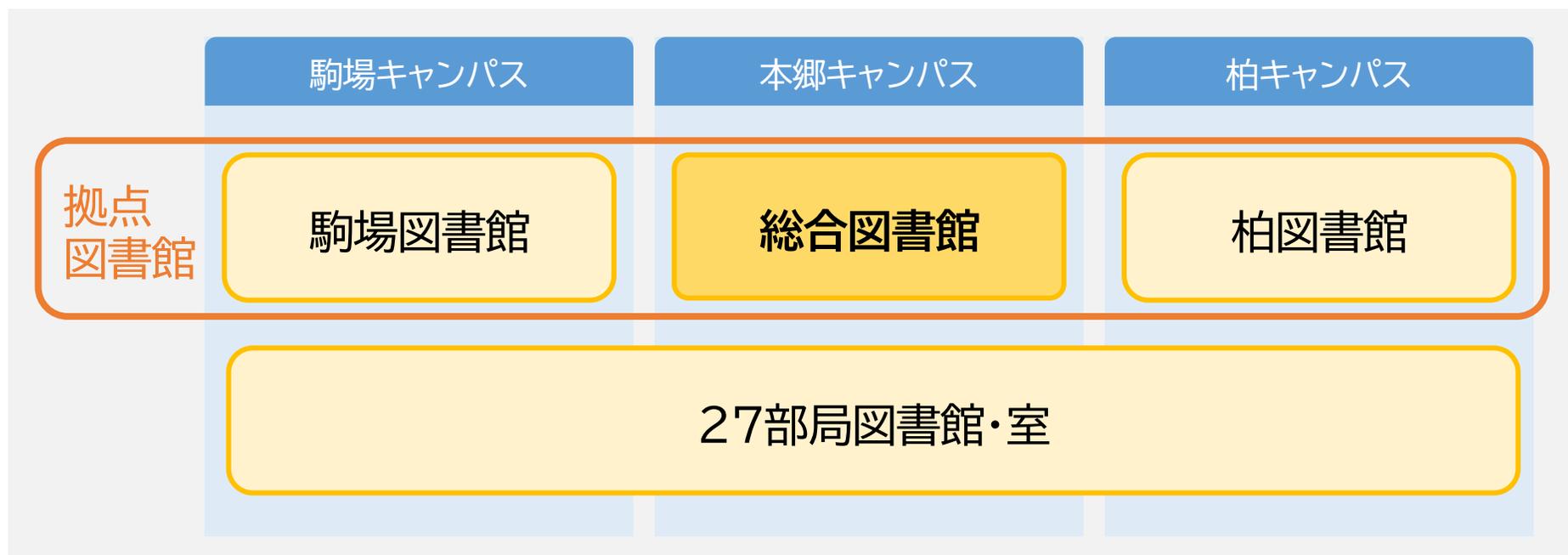
2024年1月26日(金)

国立大学図書館協会セミナー「オープンサイエンス時代における  
〈場〉としての大学図書館:事例から見るライブラリー・スキーマ」

# 東京大学附属図書館の組織



- ◆ 3つの拠点図書館と27の部局図書館・室で構成
- ◆ 一つのシステムとして東京大学の学習・教育・研究活動をサポート
- ◆ 総合図書館は附属図書館全体の連絡・調整・企画も担当



# 東京大学附属図書館ライブラリー・スキーマ検討チーム メンバー

- 田口忠祐

情報システム部情報基盤課学術情報チーム 係長

- 立原ゆり

附属図書館総務課企画渉外チーム 主任

- 尾城友視

附属図書館情報管理課情報管理チーム 選書受入担当 一般職員

- 中村美里

附属図書館情報サービス課資料整備チーム 係長



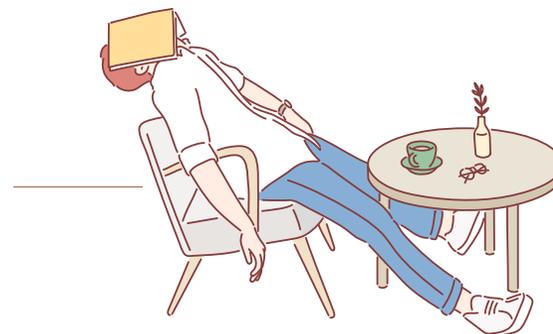
# ライブラリー・スキーマ検討チームの 立ち上げ経緯

- きっかけ
  - 「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について(審議のまとめ)」にある「ライブラリー・スキーマ」については、ボトムアップで検討してもいいのではないか、という問題意識を持った職員が附属図書館総務課長に提案
- 2023年6月30日 検討チーム発足
  - 目的:ライブラリー・スキーマの理解と検討を行い、実際にライブラリー・スキーマを記述することにより、他の図書館職員に具体例を示すこと
  - 情報システム部情報基盤課、附属図書館(総合図書館)総務課、情報管理課、情報サービス課から1名ずつがメンバーとなる
- 位置づけ:附属図書館事務部長付のチーム

# 検討の記録

- 2023年6月30日 検討チーム発足
- 2023年8月1日 検討チームキックオフミーティング
- 2023年8月2日 第2回ミーティング
- 2023年11月15日 第3回ミーティング
- 2023年11月27日 第4回ミーティング
- 2023年11月29日 第5回ミーティング
- 2023年11月30日 第6回ミーティング
- 2023年12月4日 第7回ミーティング
- 2023年12月12日 第8回ミーティング
- 2023年12月18日 第9回ミーティング
- 2023年12月20日 館長、部課長への説明
- 2023年12月22日 第10回ミーティング
- 2024年1月10日 第11回ミーティング
- 2024年1月15日 部課長への説明

ミーティング以外では、  
Teamsやオンラインでの作業…



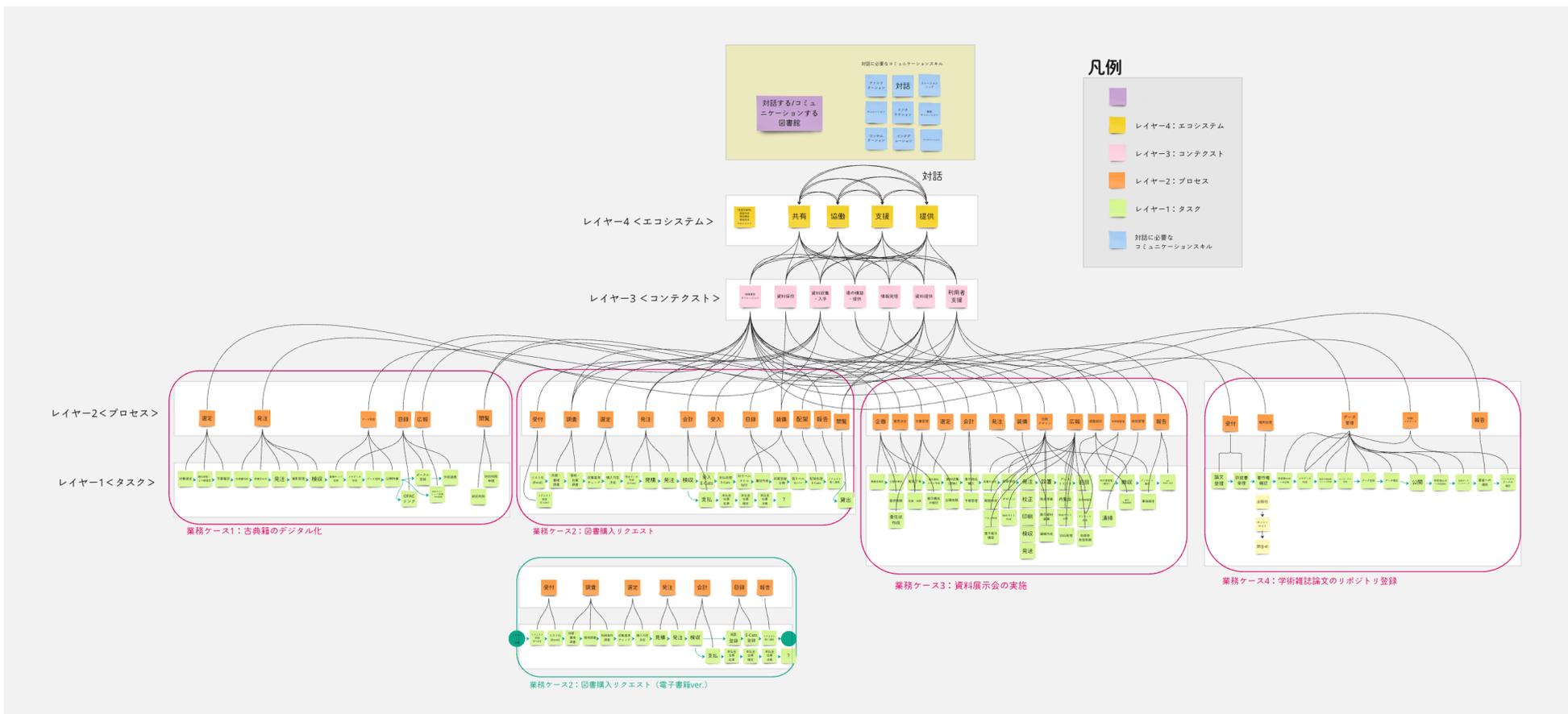
# 検討の過程

- 迷走…
- とりあえず手を動かそう
- 業務洗い出し→なんかつながりが見えてきた
  - 現在、総合図書館で行われている3業務「図書購入リクエスト」「古典籍のデジタル化」「特別展示会の実施」をもとに検討
- …スキーマに立ち返る→レイヤー！
- miroで表現してみよう





# 東京大学総合図書館のライブラリー・スキーマ



# レイヤーのイメージ



## 対話する/コミュニケーションする図書館

レイヤー1～4に通底し、図書館が何かアクションするときの行動指針となるもの。

抽象度:高



相手の例:  
学生、教員、研究者、職員、(未来の)職員

ここでのやり取りの実践において、ファシリテーションやキュレーション等のスキルが必要



具体性:高

### レイヤー4

#### <エコシステム>

図書館が機能を果たす際に、図書館(職員)と相手との間に発生する情報・サービス等のやり取りを記述。いずれの場合も双方向性となる。

例)共有、協働、支援、提供、調整

### レイヤー3

#### <コンテキスト>

文脈や状況に応じて、各種プロセスによって達成される図書館あるいは組織としての機能を記述。

例)資料保存、場の提供、情報発信、利用者支援等

### レイヤー2

#### <プロセス>

複数のタスクによって一連の処理手順を形成し、成果・価値を生み出しうる単位で記述。

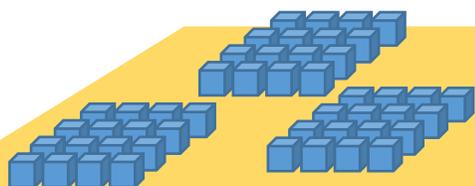
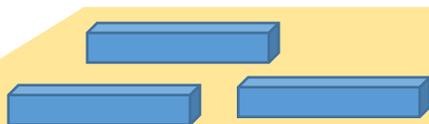
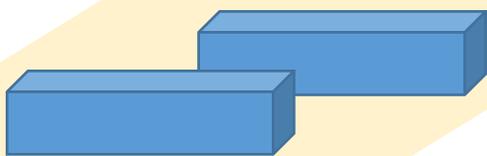
例)選定、受付、発注、会計、広報等

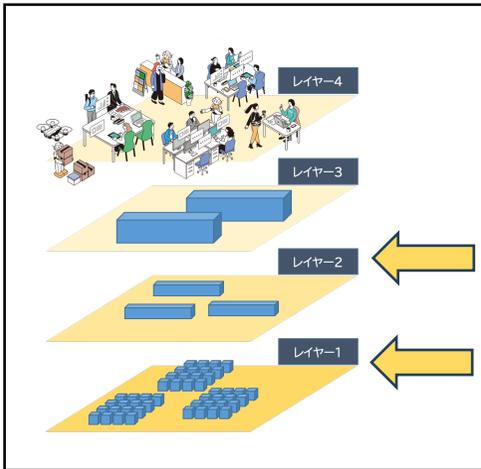
### レイヤー1

#### <タスク>

図書館職員が業務において行う作業を、意味を成す最小単位で記述。

例)資料選定、仕様書作成、貸出処理等





**レイヤー2** <プロセス>  
 複数のタスクによって一連の処理手順を形成し、成果・価値を生み出さる単位で記述。  
 例) 選定、受付、発注、会計、広報等

**レイヤー1** <タスク>  
 図書館職員が業務において行う作業を、意味を成す最小単位で記述。  
 例) 資料選定、仕様書作成、貸出処理等

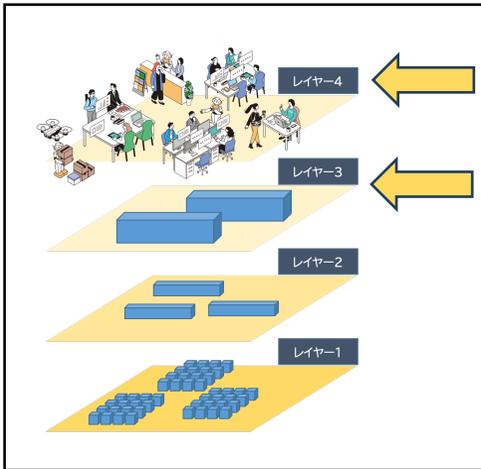
**レイヤー2**



**レイヤー1**

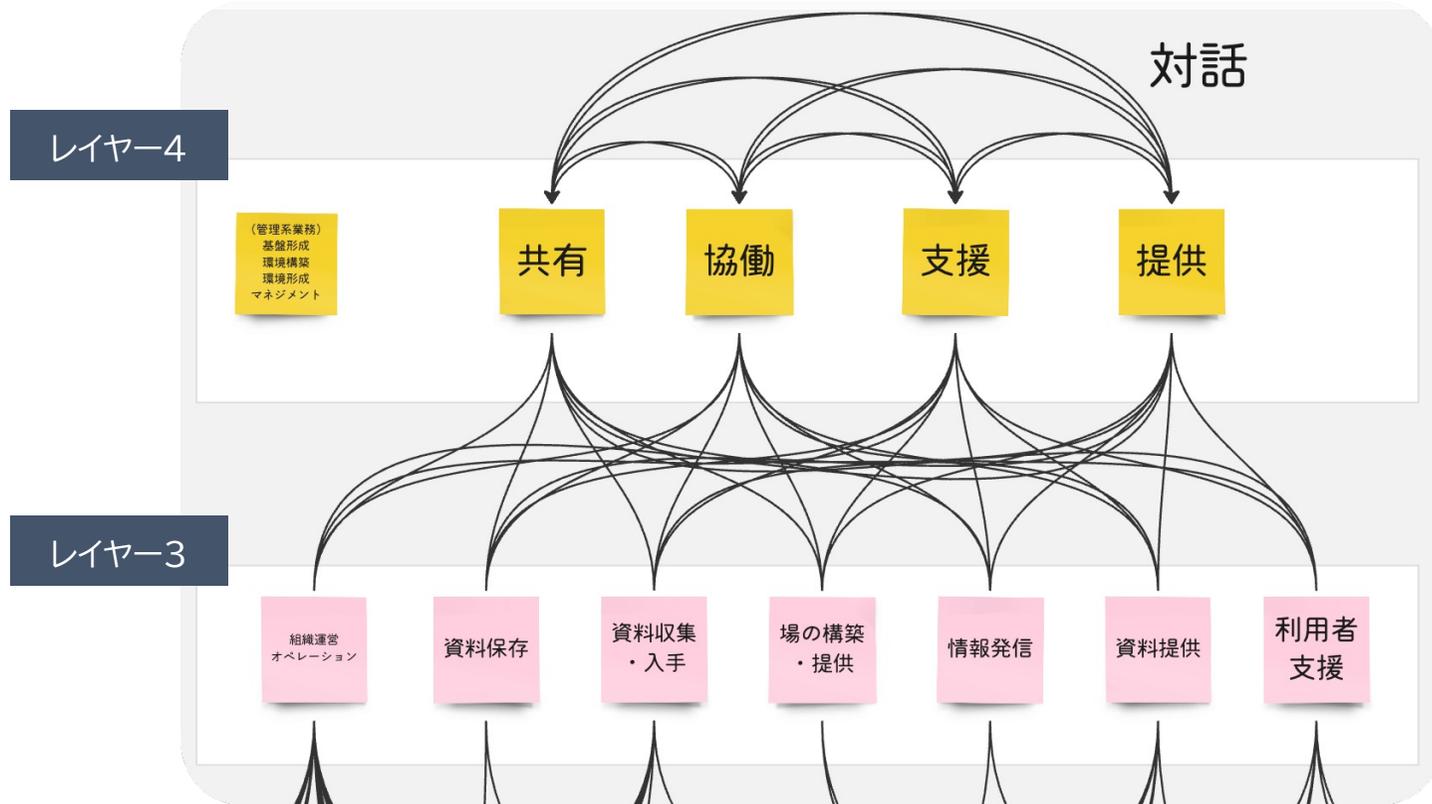


業務ケース2：図書購入リクエスト



**レイヤー4** <エコシステム>  
 図書館が機能を果たす際に、図書館(職員)と相手との間に発生する情報・サービス等のやり取りを記述。いずれの場合も双方向性となる。  
 例)共有、協働、支援、提供、調整

**レイヤー3** <コンテキスト>  
 文脈や状況に応じて、各種プロセスによって達成される図書館あるいは組織としての機能を記述。  
 例)資料保存、場の提供、情報発信、利用者支援等



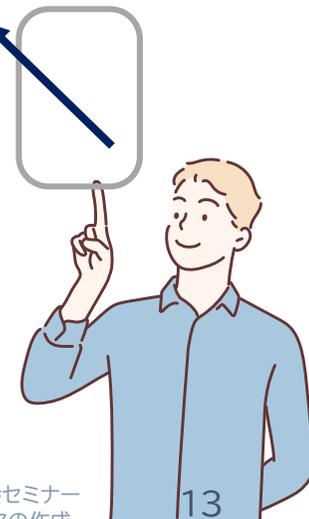
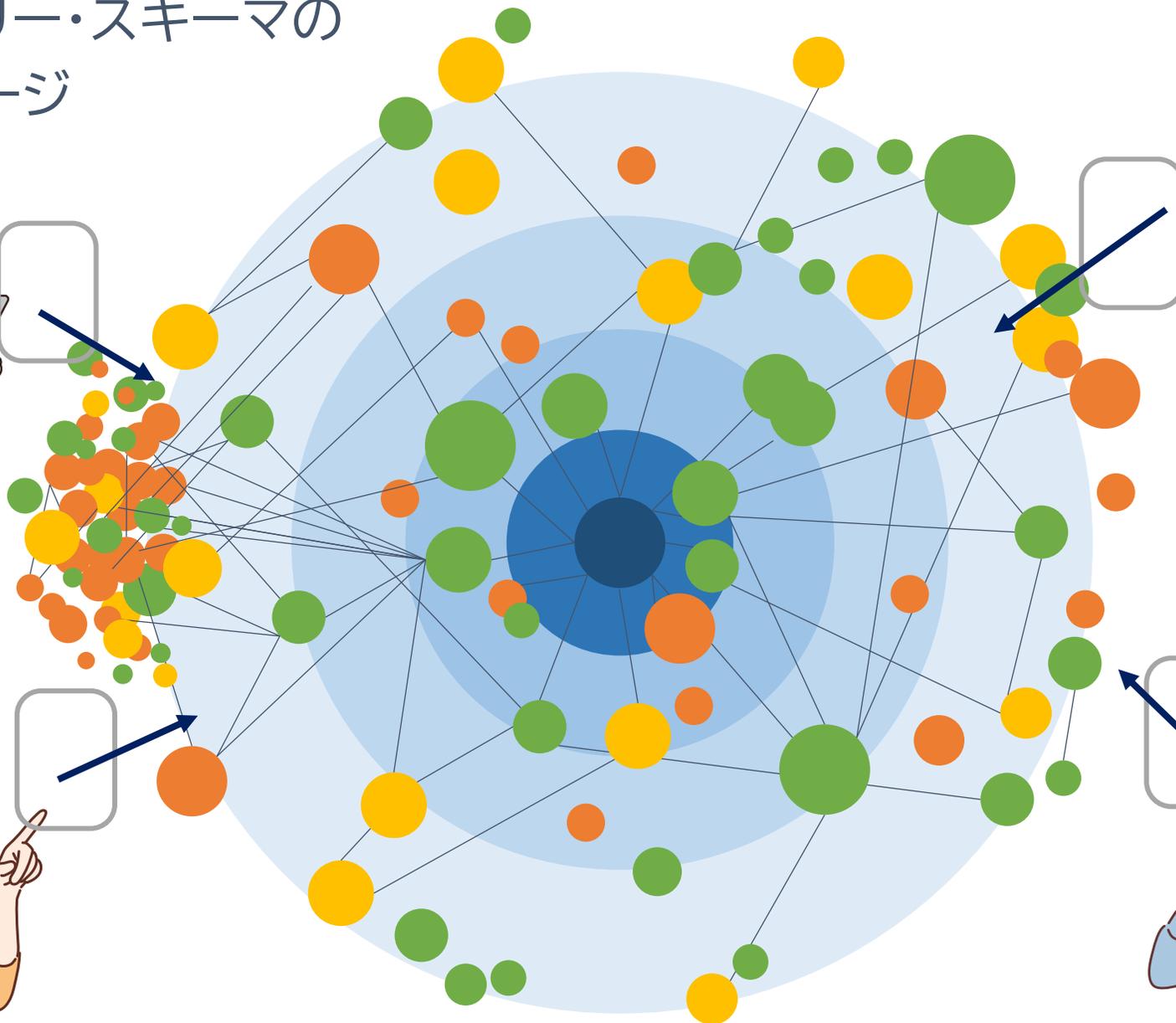
私たち検討チームが考える

# ライブラリー・スキーマとは

- ライブラリー・スキーマは図書館を論理的に記述したもの
- 複数の「レイヤー(階層性)」によって構成される
  - レイヤーは上下関係を意味せず、抽象度、具体性を分けるもの
- 各レイヤー上には、図書館を構成する「要素」がある
- 各要素は原則として、同一あるいは隣接するレイヤーにある要素との「繋がり」を持つ
  - 一対一ではなく、一対複数の場合もある
- ステークホルダーには、それぞれの属性に応じ最適化されたインターフェースがある
  - 属性によってライブラリー・スキーマの見え方は異なる



# ライブラリー・スキーマの 全体イメージ



# ライブラリー・スキーマの作成により わかったこと

- 現業務の洗い出しを行うことで、自身あるいは他部署の業務を再確認する機会になる。
- 洗い出した業務をレイヤーにまとめ直すことによって、その業務の意味、最終的なミッションを認識することができる。同様に、たとえばボトルネックとなっている業務を可視化できるなど、業務を俯瞰することができる。
- 更に、強み/弱みの分析や、今後新たに取り組んでいきたいことをどのように位置づけ、既存の業務と関連させるかを考えるための手立てにもなる。
- 業務の関係性を整理することで、同一内容の業務や関連業務を一覧できるようになる。  
ex: 会計処理に関する全業務を確認したい
- **ライブラリー・スキーマは、デジタルライブラリー化を前提とした業務を検討する際の見取り図となりうる。**

私たち検討チームがライブラリー・スキーマを作成しながら考えた

# 将来構想：2030年の図書館は…



## ●デジタルコンテンツがストレスなく使える世界

- そのためにはコンテンツがデジタル化されていなければいけない  
← 図書館もそこに関わっていく必要がある
- そのとき、検索はようになる？OPAC？ディスカバリー？

## ●図書館に図書館職員以外の人がいる世界

- 従来型の図書館職員だけでなく、ある分野に特化した専門職も
  - URA、出版コーディネーター、オープンサイエンスコーディネーターetc.
- 柔軟な人事制度が必要
  - 採用方法、キャリアパスetc.



私たち検討チームが考える

# 今後のライブラリー・スキーマの展開

- 総合図書館の構成員への提案
- 総合図書館ライブラリー・スキーマの拡充と記述方式の検討、マニュアル整備
- 人員増強(チームメンバー増加、ワークショップ実施等)

